

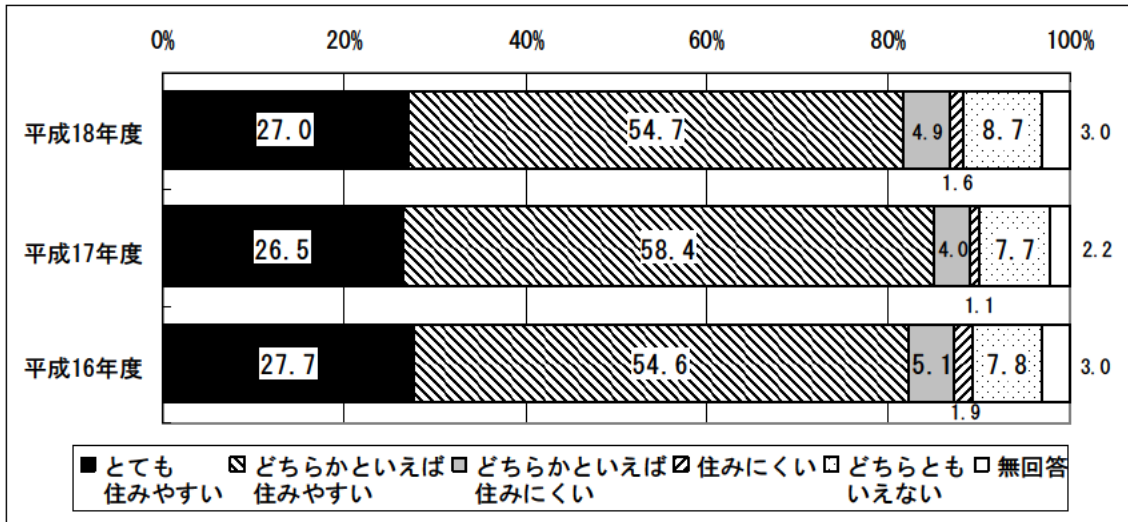
III 調查結果

1. 三重県の住みやすさについての評価及び今後の定住意向

問1-1 あなたにとって、三重県は住みやすい県ですか。(回答は単一選択式)

○全体

(集計資料 p.1)



平成18年度

全体では、27.0%の人が「とても住みやすい」と答えており、これに「どちらかといえば住みやすい」(54.7%)を合わせると、「住みやすい」と答えた人は81.7%となっている。

一方、「住みにくい」(1.6%)や「どちらかといえば住みにくい」(4.9%)と答えた“住みにくい”と感じている人は、6.5%となっている。

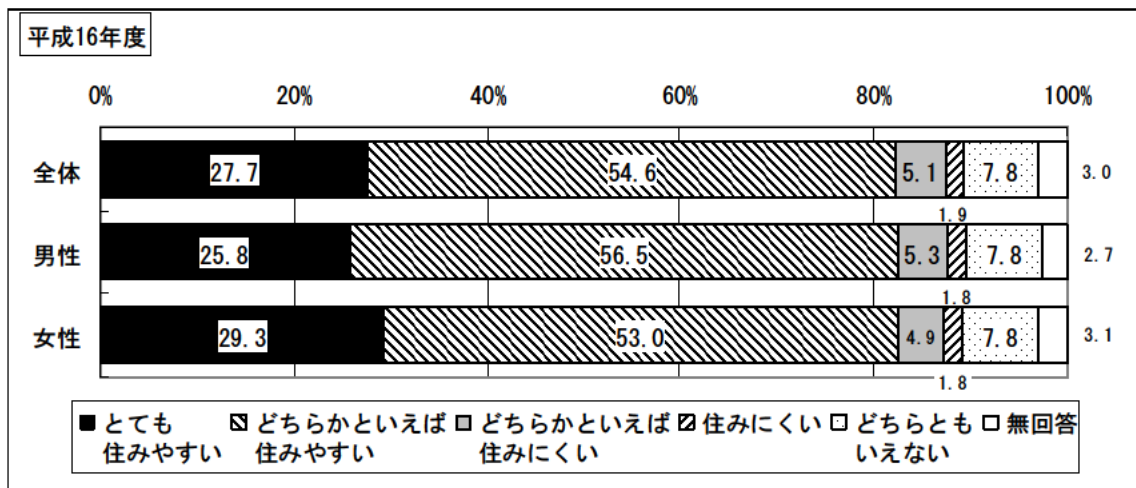
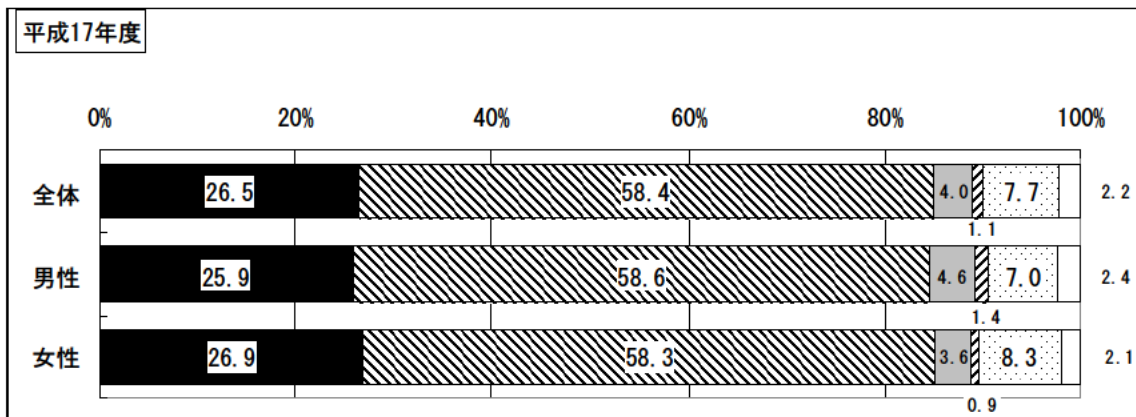
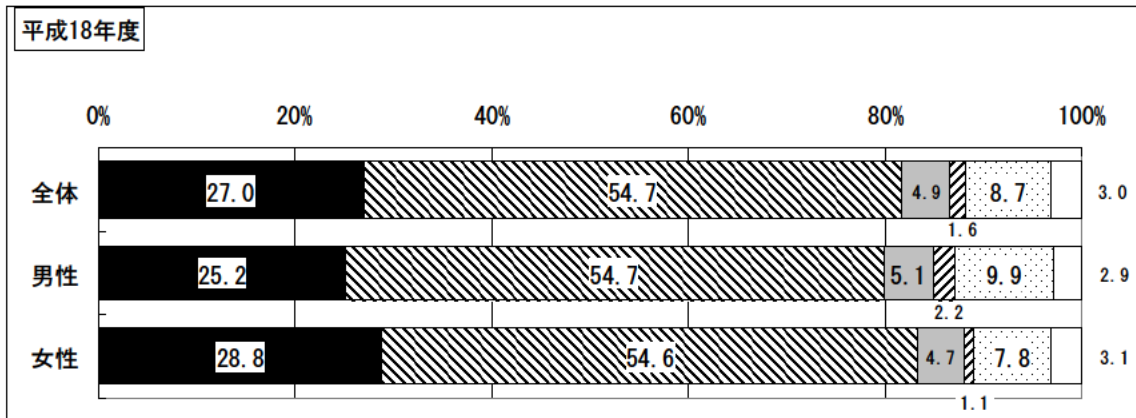
平成16年度、平成17年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、平成10年度の調査開始以来、最高値だった17年度に比べ、18年度では3.2ポイント減少している。

一方、“住みにくい”と感じている人の割合は、17年度から18年度にかけて1.4ポイント増加している。

○性別

(集計資料 p.1)



平成18年度

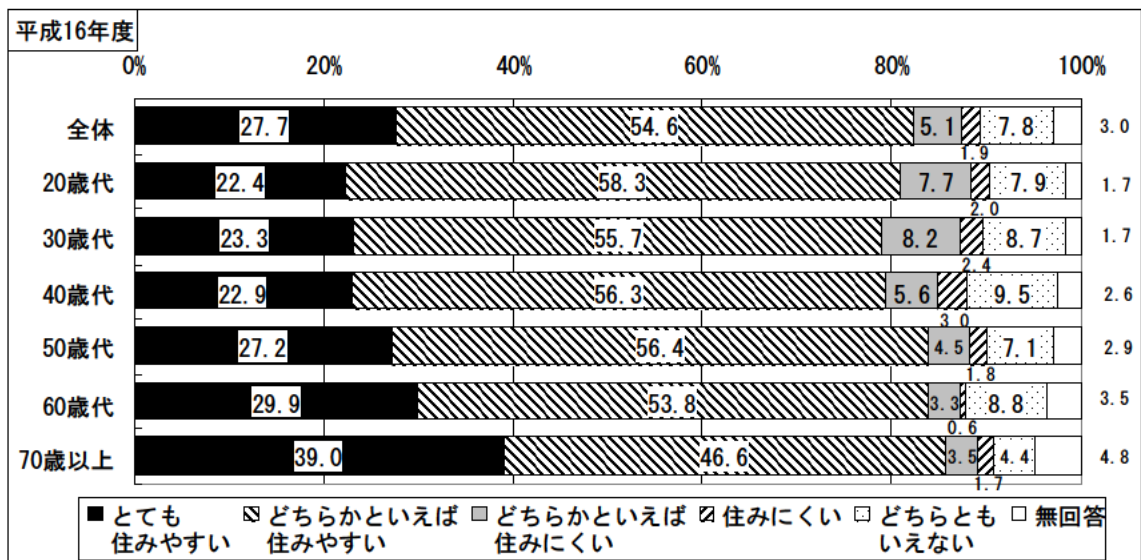
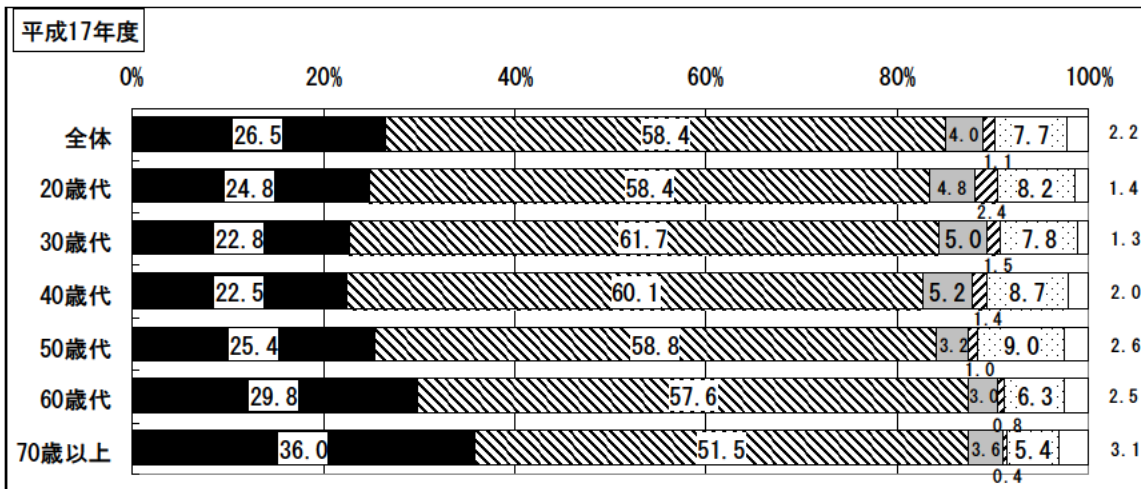
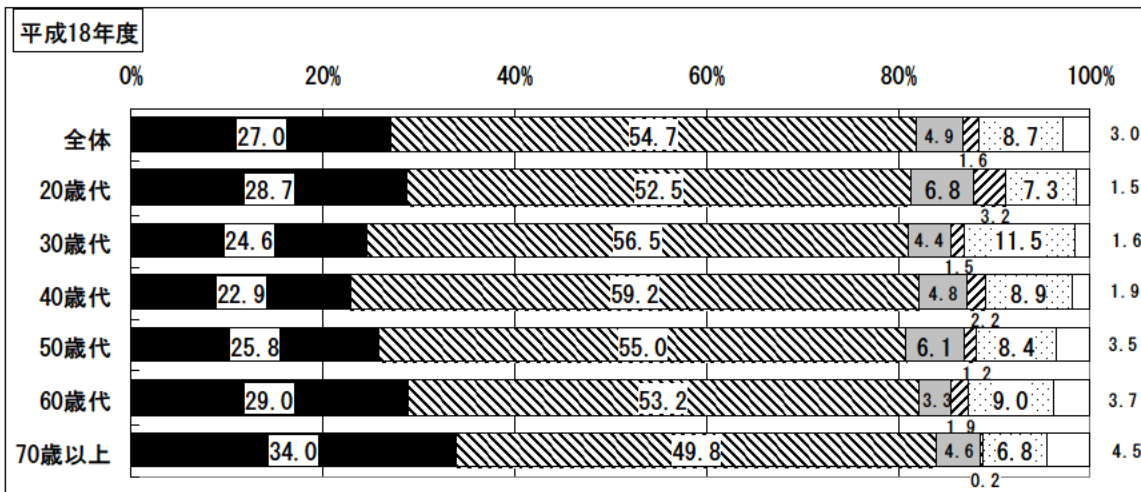
“住みやすい”と答えた人の割合は、女性（83.4%）が男性（79.9%）を3.5ポイント上回っている。

平成16年度、平成17年度との比較

性別では、「とても住みやすい」と答えた人の割合は17年度から18年度にかけて男性はほぼ横ばい状態であるのに対し、女性では1.9ポイント増加している。“住みやすい”と答えた人の割合は、男性は4.6ポイント、女性は1.8ポイント減少している。

○年齢層別

(集計資料 p.1)



平成 18 年度

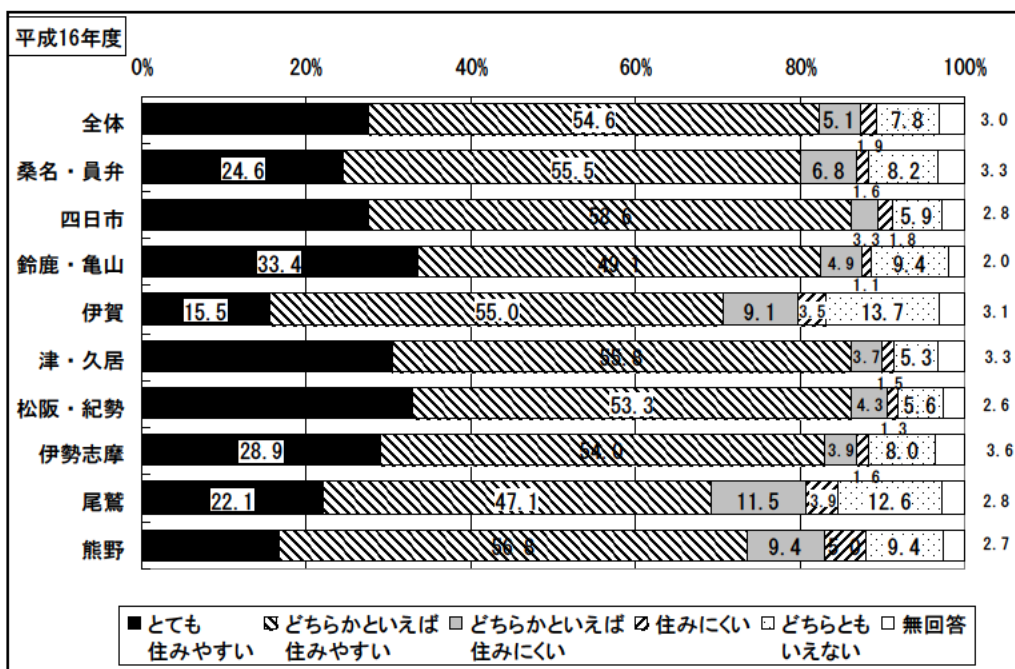
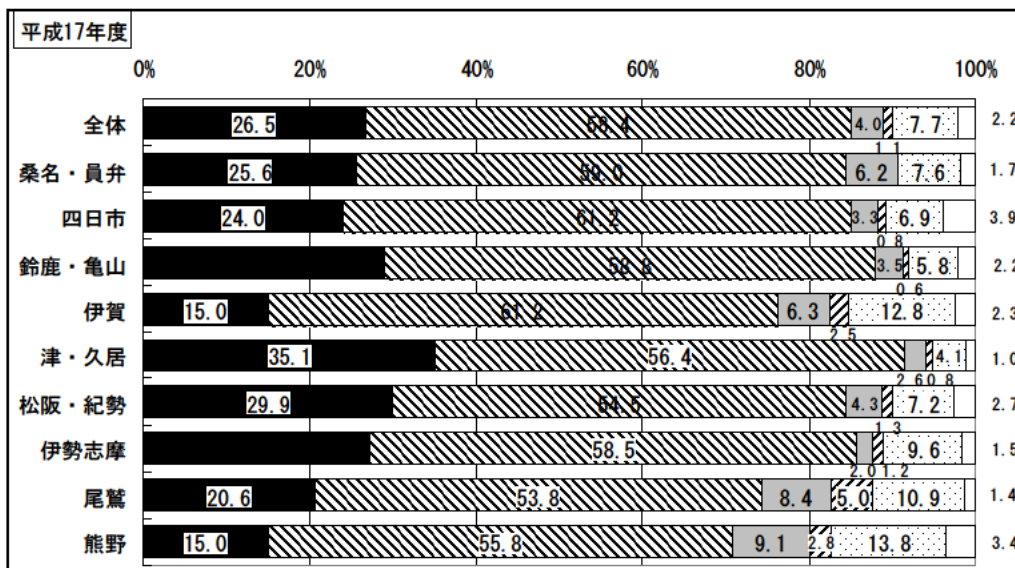
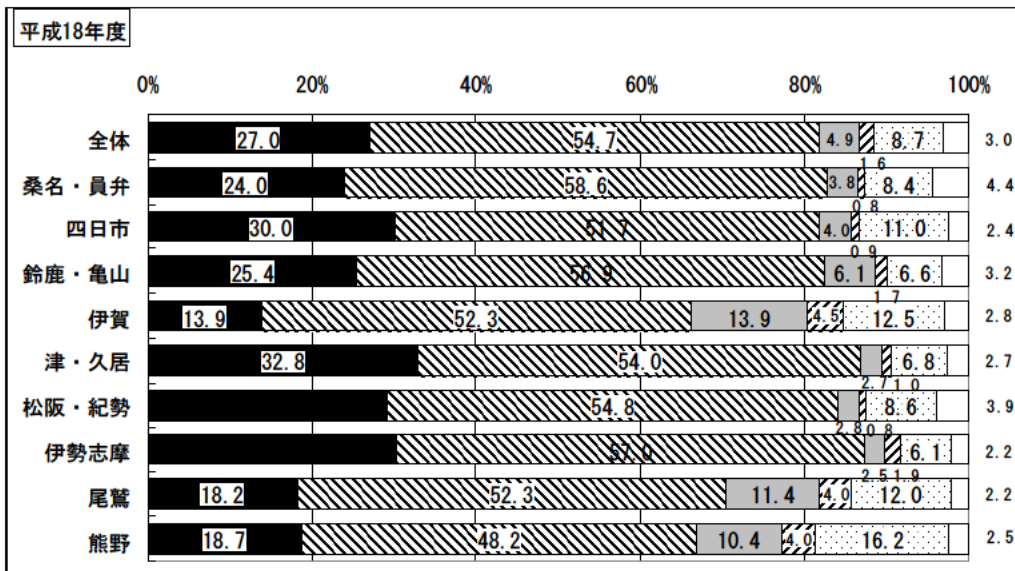
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、70 歳以上で最も高く 34.0%となっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、全ての年齢層で 8 割を超えている。

平成 16 年度、平成 17 年度との比較

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、16 年度から 18 年度にかけて 20 歳代では増加しているが、60 歳代以上では減少している。また、“住みやすい”と答えた人の割合は 17 年度から 18 年度にかけて全ての年齢層で減少しており、中でも 60 歳代は 5.2 ポイント減少している。

○生活創造圏別

(集計資料 p.1)



平成 18 年度

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、津・久居(32.8%)、伊勢志摩(30.3%)、四日市(30.0%)、松阪・紀勢(29.1%)で高く約3割となっているのに対し、伊賀や尾鷲、熊野では2割未満にとどまっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、伊勢志摩(87.3%)、津・久居(86.8%)で高く約9割を占めている。

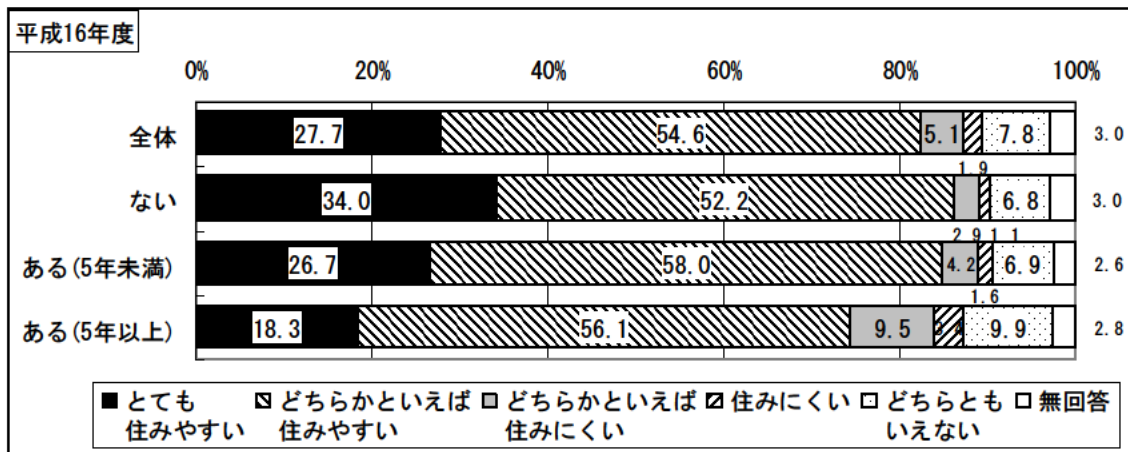
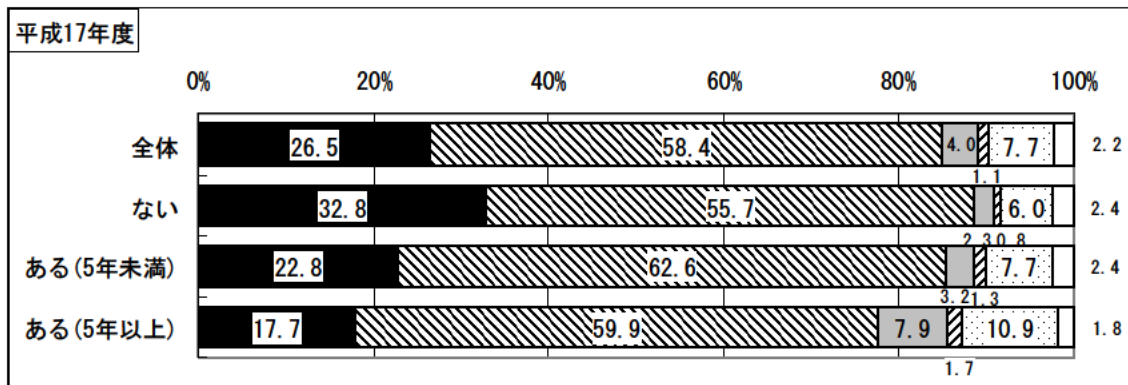
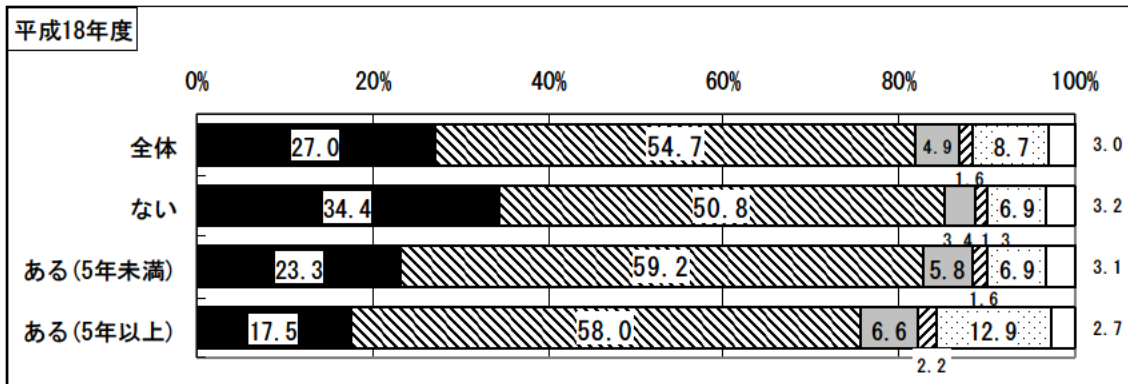
一方、尾鷲(70.5%)、熊野(66.9%)、伊賀(66.2%)では、“住みやすい”と答えた人の割合が約7割と、県全体と比較して低くなっている。

平成 16 年度、平成 17 年度との比較

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、17年度と比べ四日市、伊勢志摩、熊野を除く全ての地域で減少している。“住みやすい”と答えた人の割合は、伊賀、尾鷲、熊野では県全体と比較して低く推移している。また、17年度から18年度にかけて伊勢志摩を除く全ての地域で減少しており、伊賀で10.0ポイント、鈴鹿・亀山で5.6ポイント、津・久居で4.7ポイント減少している。

○県外在住の経験別

(集計資料 p.1)



平成18年度

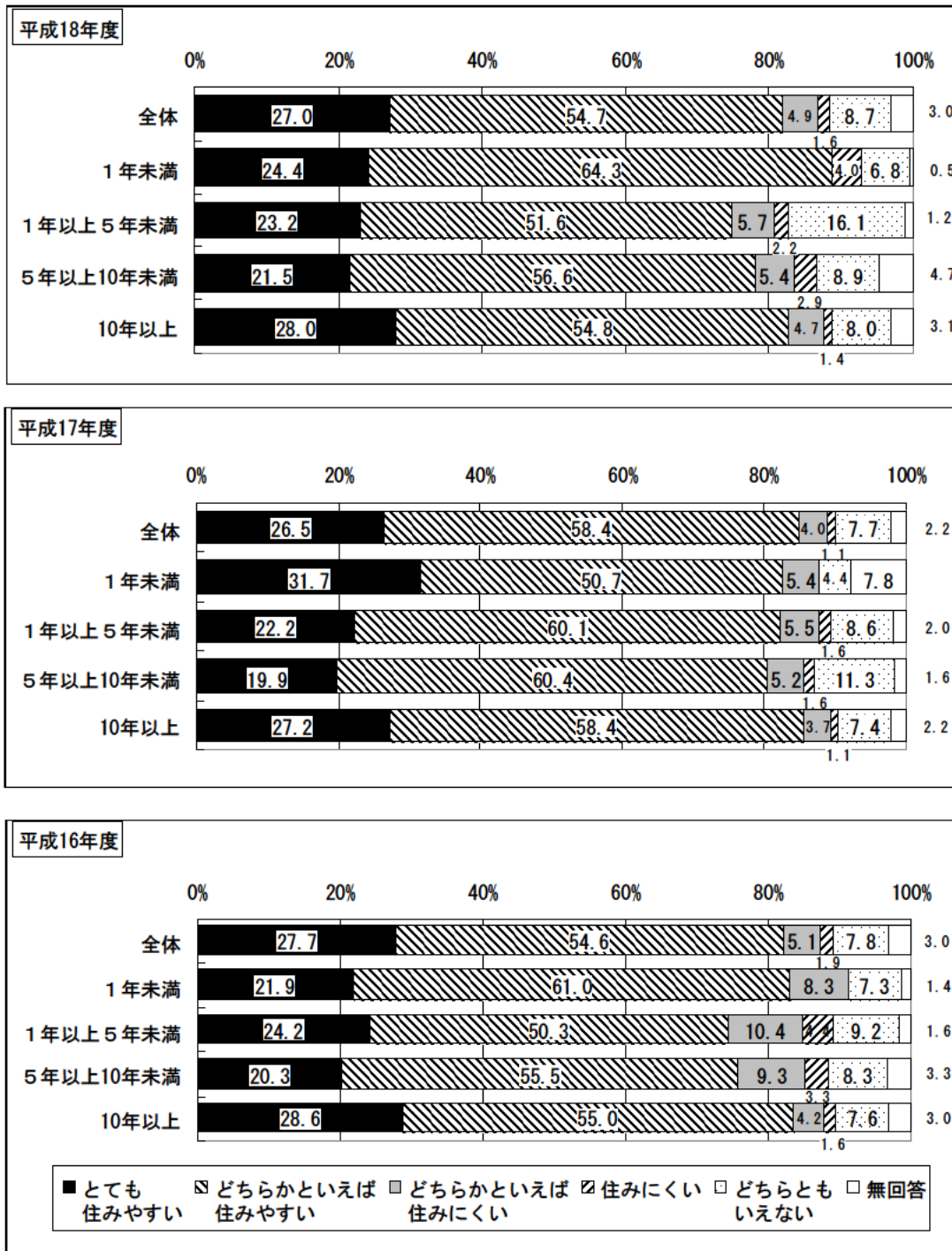
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、県外在住の経験が「ない人」(34.4%)が「ある人」(5年未満が23.3%、5年以上が17.5%)を上回っており、県外在住経験年数が高いほど“住みやすい”と感じている人は少なくなっている。

平成16年度、平成17年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、16年度から17年度にかけて全ての階層で一旦増加したものの、17年度から18年度にかけては減少している。

○居住年数

(集計資料 p.1)



平成18年度

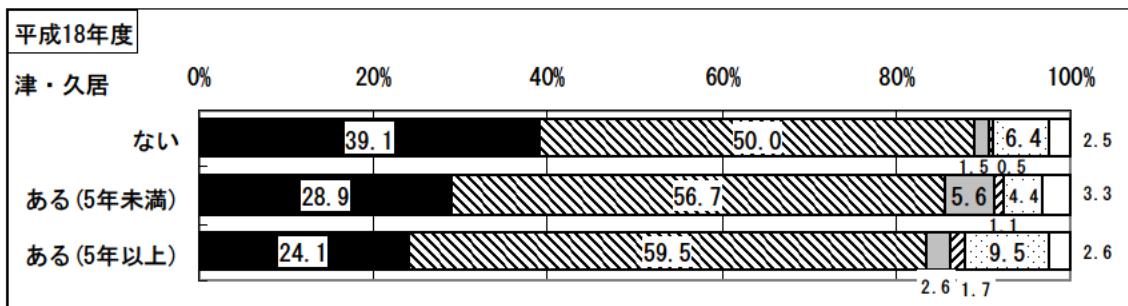
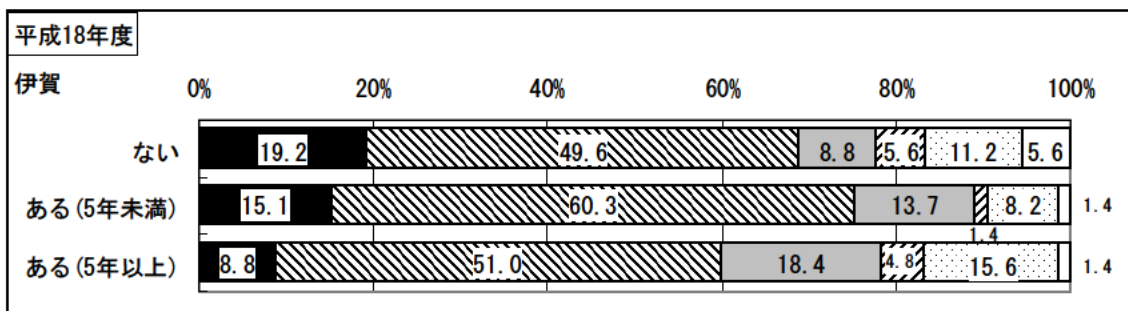
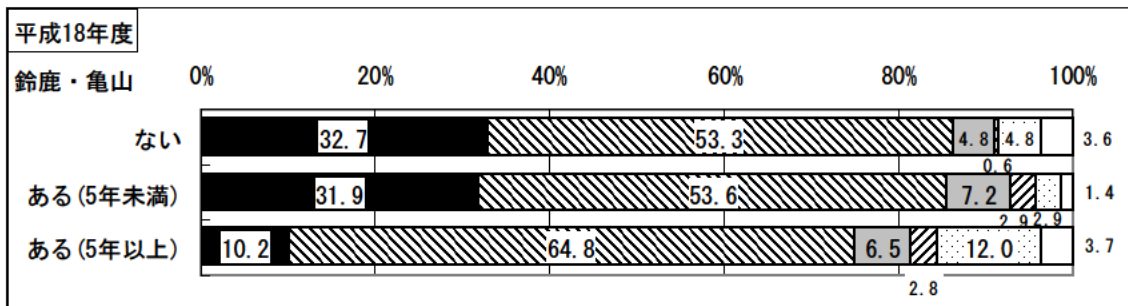
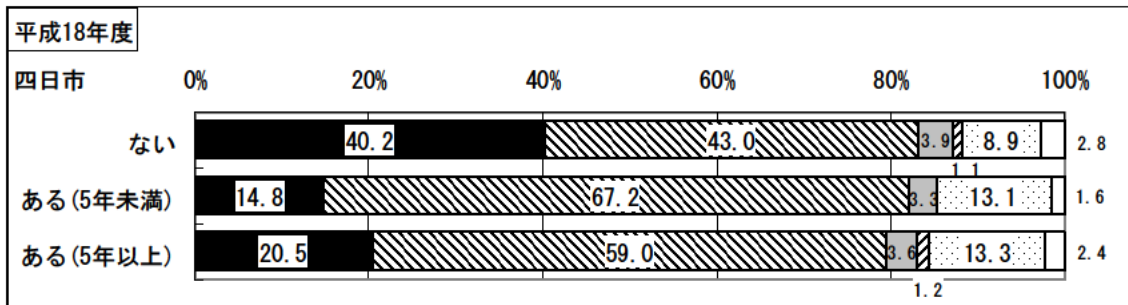
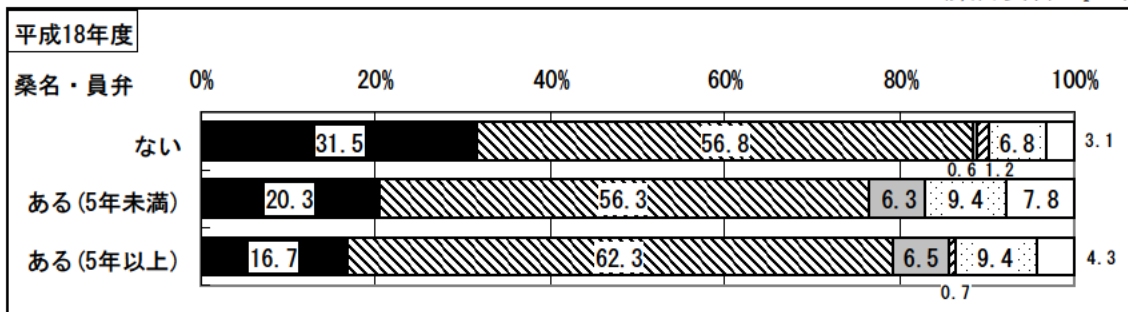
居住年数別では、“住みやすい”と答えた人の割合は、居住年数が1年未満の人が最も高く88.7%と約9割を占め、次いで10年以上の人が82.8%となっている。

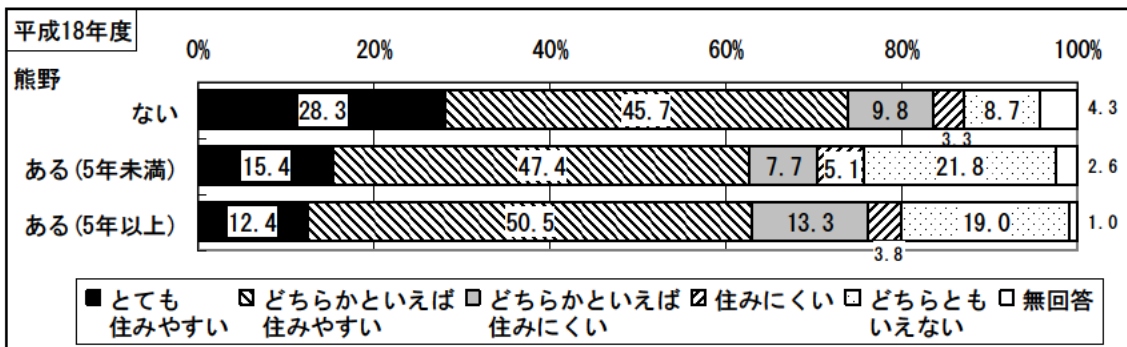
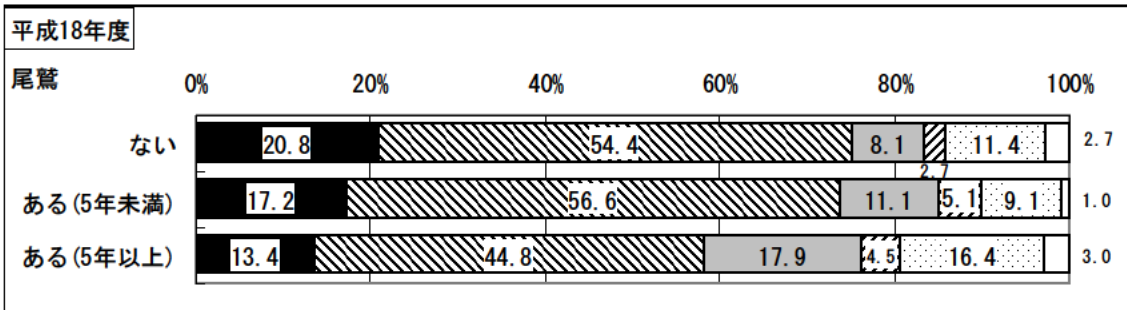
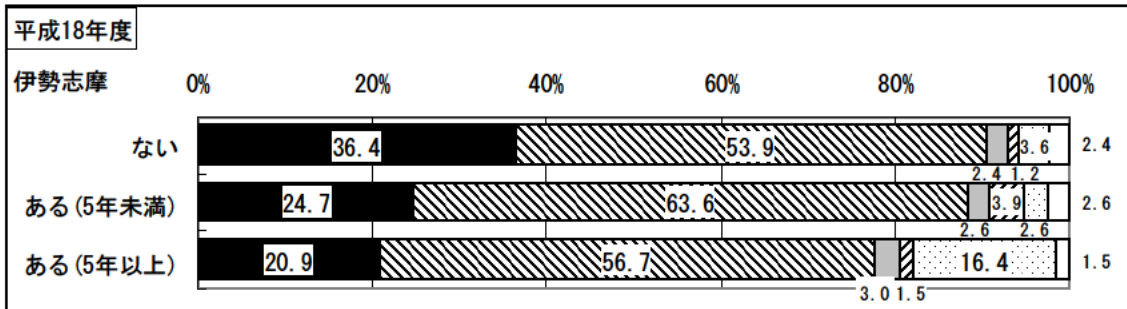
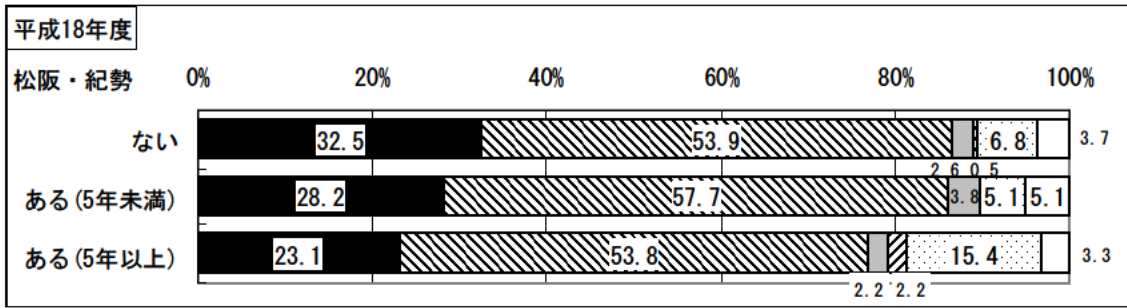
平成16年度、平成17年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、17年度から18年度にかけては居住年数が1年未満では6.3ポイント増加しているのに対し、1年以上5年未満では7.5ポイント、10年以上では2.8ポイント、5年以上10年未満では2.2ポイント減少している。

○生活創造圏・県外在住経験別

(集計資料 p.2)





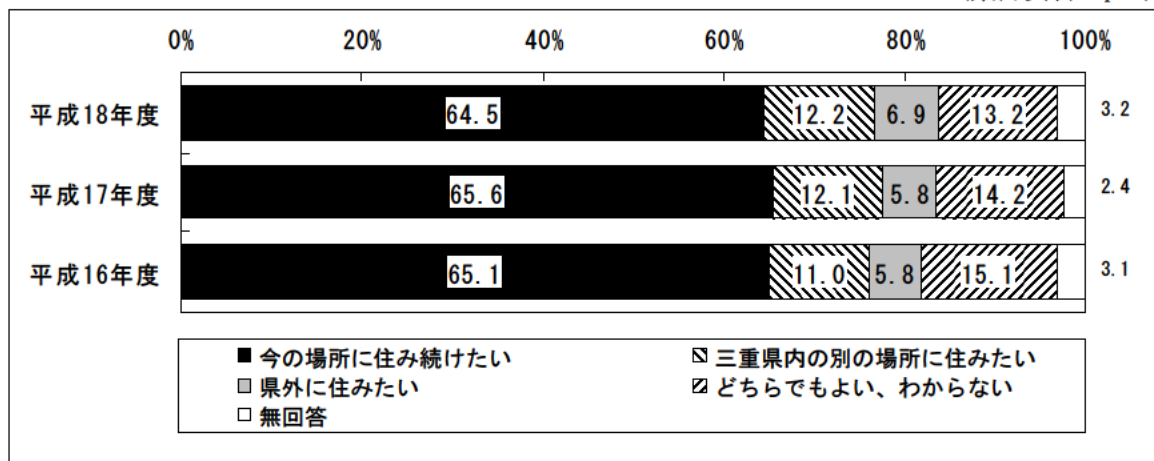
平成18年度

「とても住みやすい」と回答した人の割合が、四日市では、県外在住経験が「ない人」に比べて県外在住経験が「ある人」の「とても住みやすい」と回答した人の割合が25ポイント以上低くなっている。また、鈴鹿・亀山では、県外在住経験が「ない人」と「ある人（5年未満）」で「とても住みやすい」と回答した人の割合がほぼ同じとなっている。

問 1 - 2 あなたは今後も三重県に住みたいと思いますか。(回答は単一選択式)

○全 体

(集計資料 p.3)



平成 18 年度

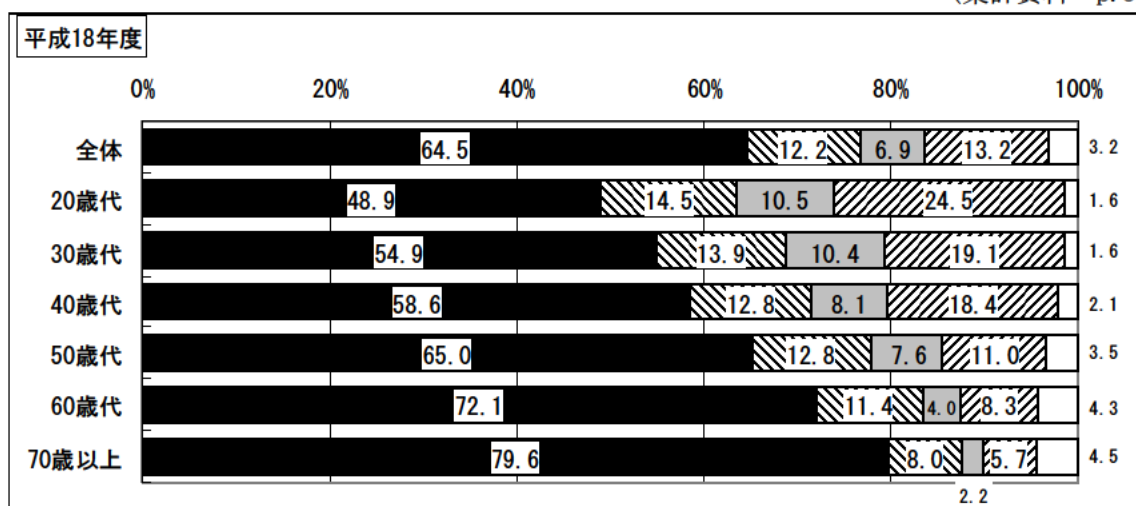
全体では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合が 64.5%となっており、これに「三重県内の別の場所に住みたい」(12.2%)を合わせた“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合は約 8 割 (76.7%) を占めている。

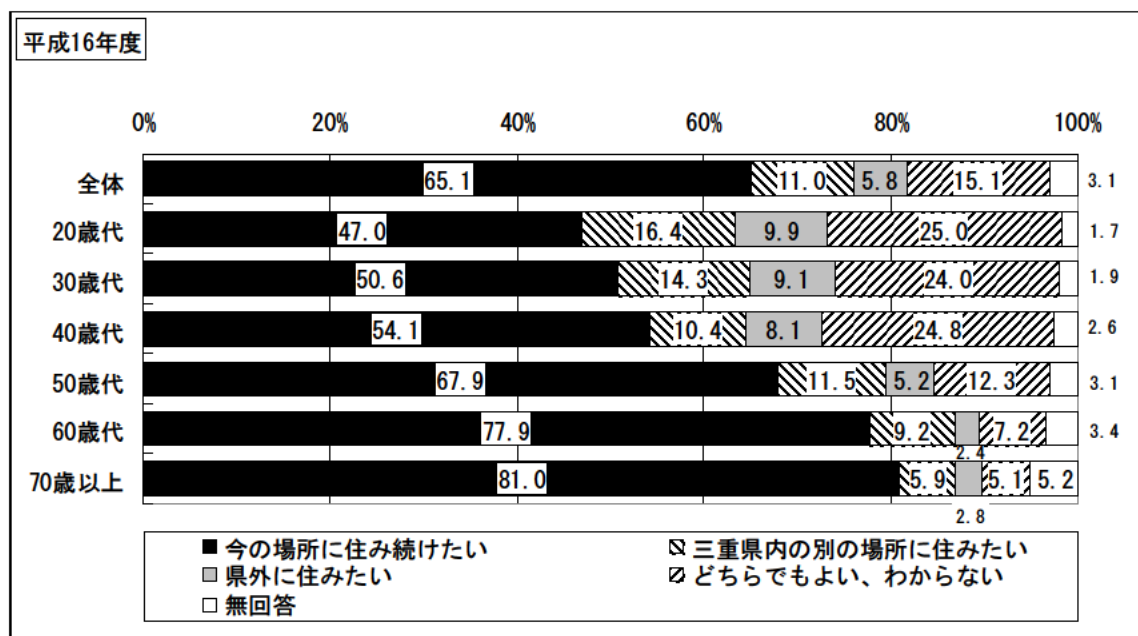
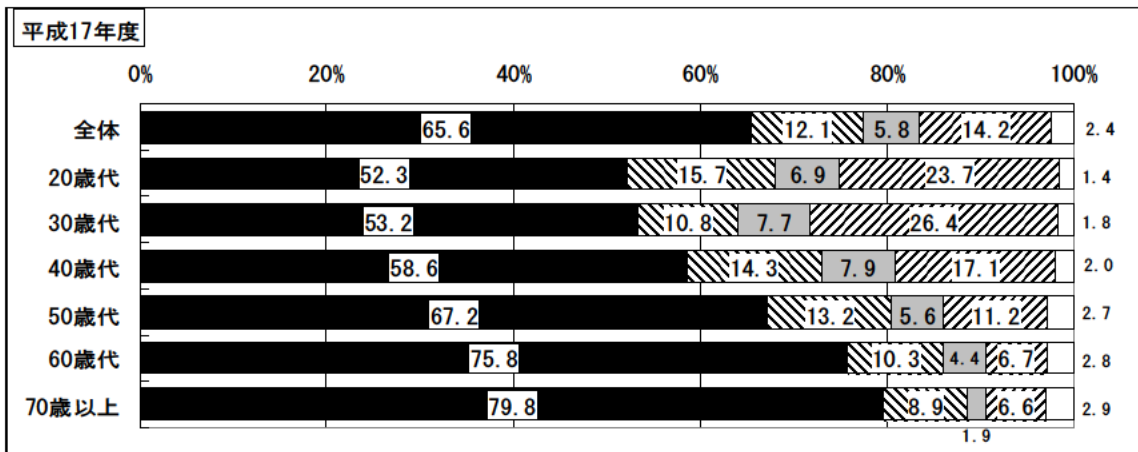
平成 16 年度、平成 17 年度との比較

16 年度から 18 年度にかけて、特に大きな変化はみられない。

○年齢層別

(集計資料 p.3)





平成18年度

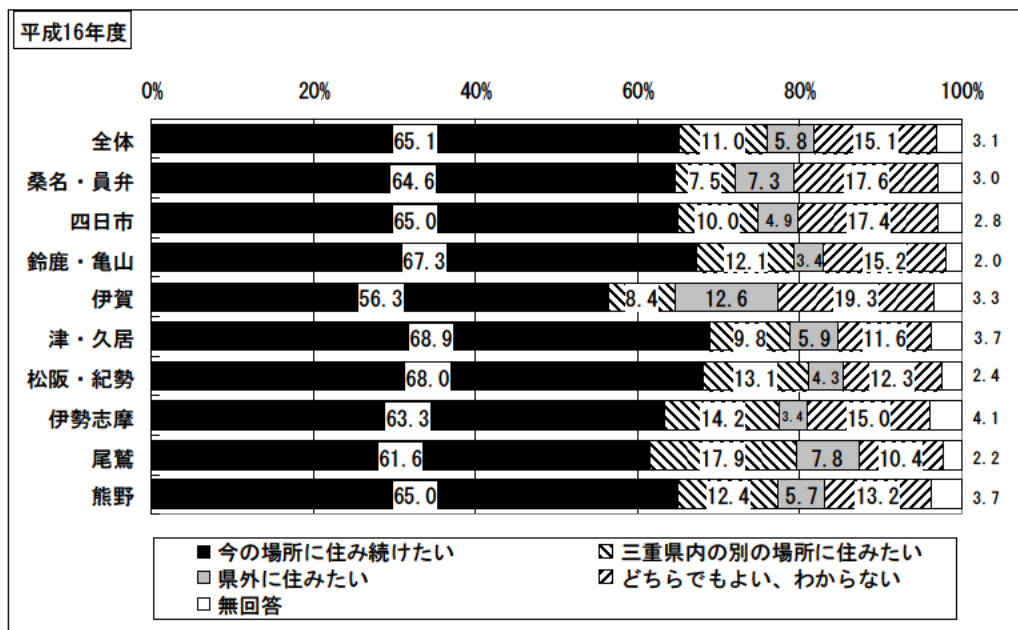
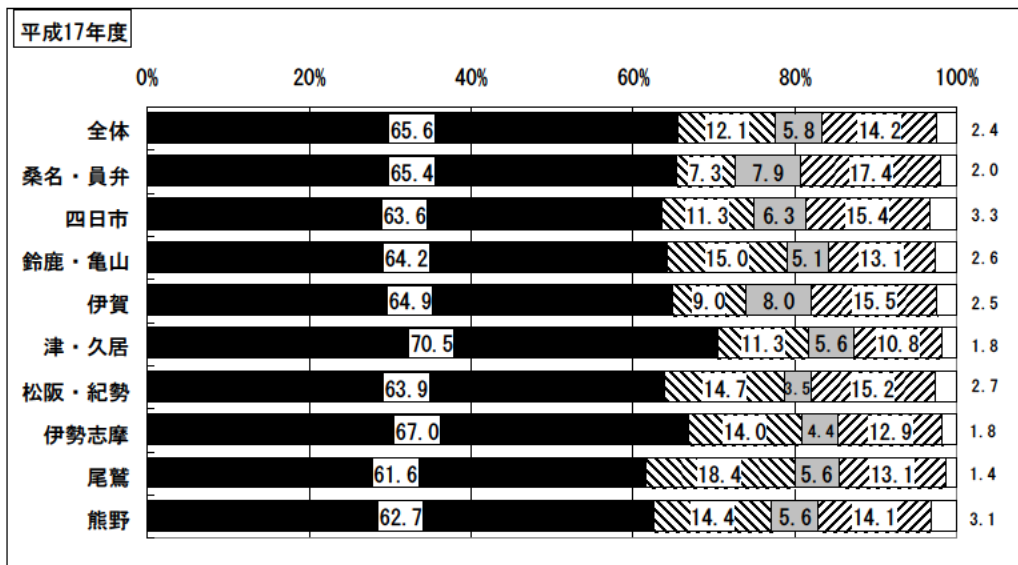
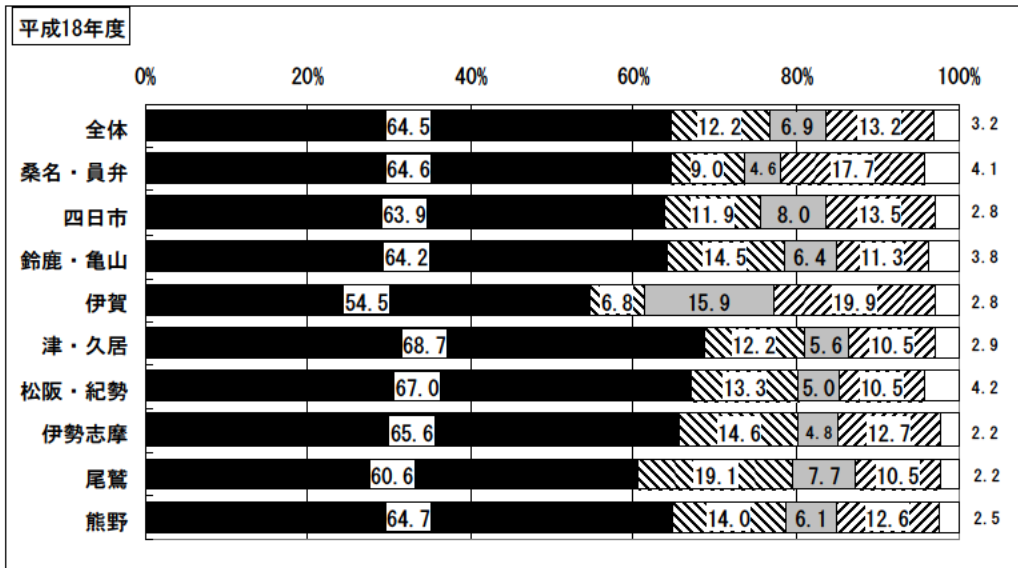
年齢層別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、年齢とともに高くなり、70歳以上では約8割（79.6%）を占めている。また、「今後も三重県に住みたい」と答えた人の割合は全ての年齢層で6割を超えており定住意向は高くなっている。中でも60歳以上では定住意向は8割を超えている。

平成16年度、平成17年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、17年度から18年度にかけて20歳代、50歳以上で減少している。「今後も三重県に住みたい」と答えた人の割合は、30歳代で4.8ポイント増加した他は減少している。

○生活創造圏別

(集計資料 p. 3)



平成 18 年度

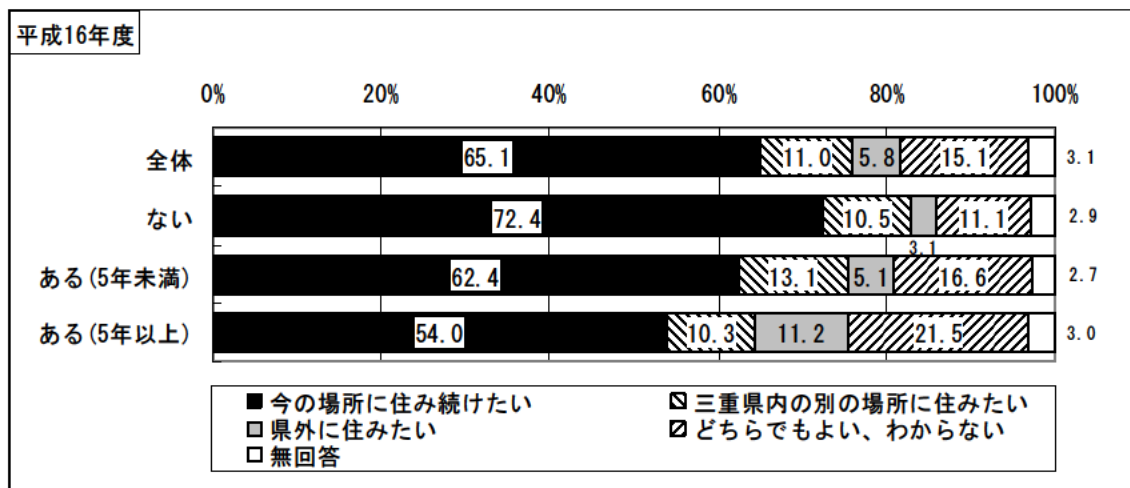
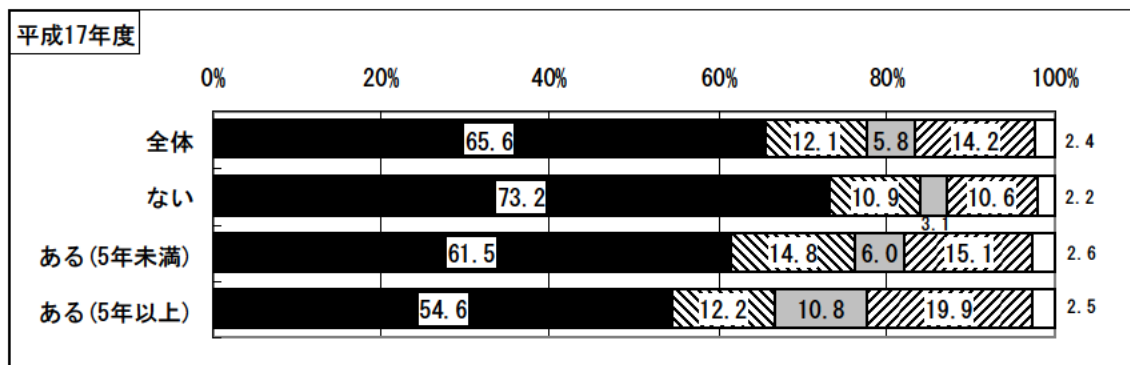
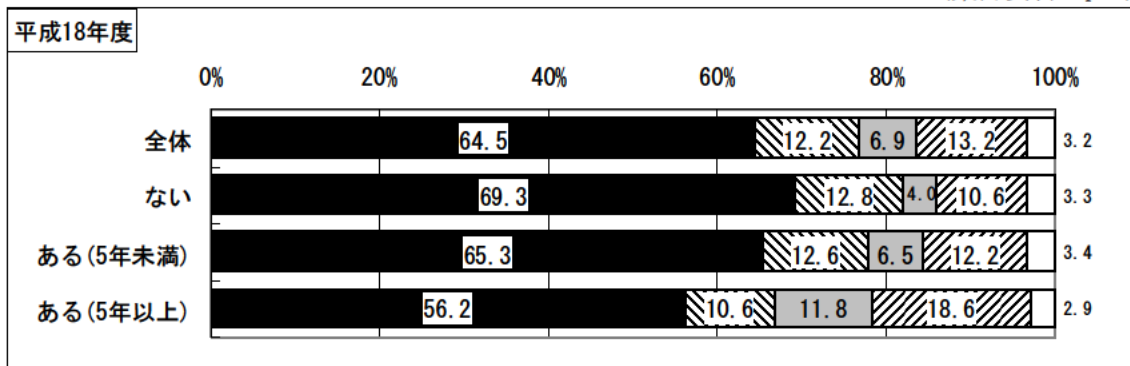
生活創造圏別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、津・久居（68.7%）、松阪・紀勢（67.0%）、伊勢志摩（65.6%）で約 7 割と高くなっているのに対し、伊賀では 54.5%と定住意向は低くなっている。

平成 16 年度、平成 17 年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、四日市、松阪・紀勢、熊野では 17 年度に比べて増加しているのに対し、桑名・員弁、伊賀、津・久居、伊勢志摩、尾鷲では減少している。特に伊賀では 10.4 ポイント減少している。

○県外在住の経験別

(集計資料 p. 3)



平成18年度

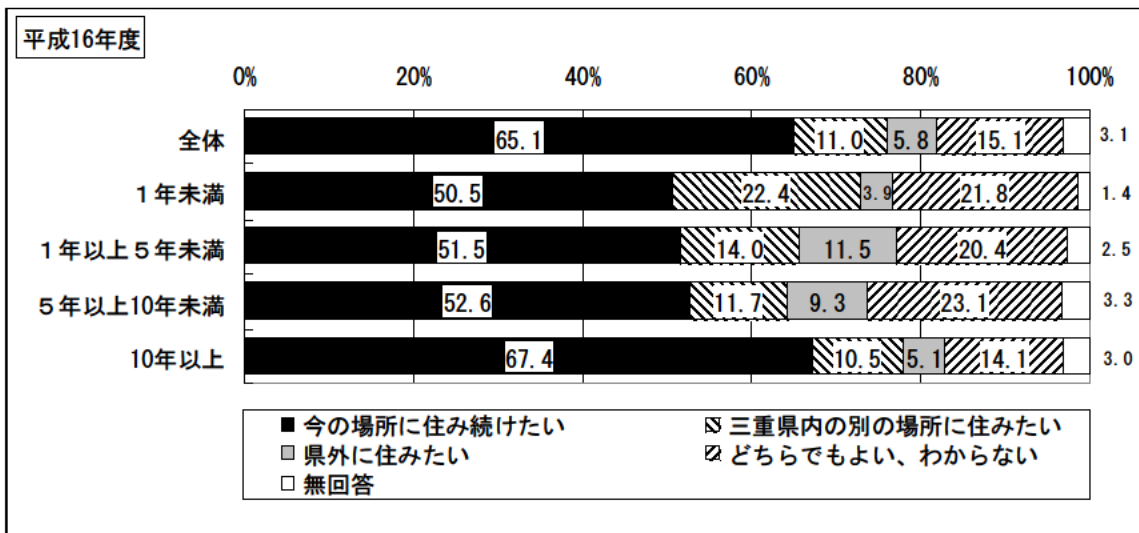
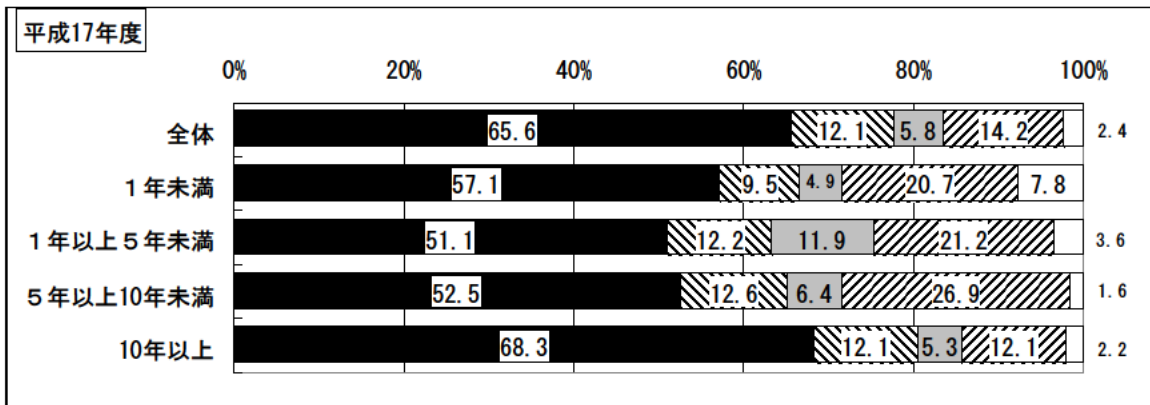
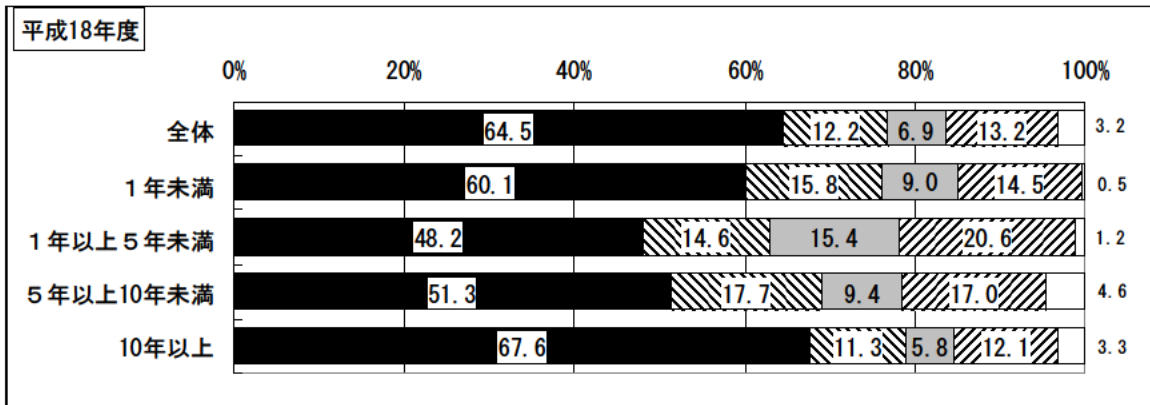
県外在住経験別では、「今この場所に住みたい」と答えた人の割合は、県外在住経験が「ある人」に比べ県外在住経験が「ない人」の方が高くなっている。

平成16年度、平成17年度との比較

「今この場所に住みたい」と答えた人の割合は、17年度から18年度にかけて県外在住経験が「ある人」で増加しているのに対し、「ない人」では減少している。

○居住年数

(集計資料 p.3)



平成18年度

居住年数別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、居住年数が10年以上の人で最も高く約7割（67.6%）を占め、次いで1年未満の人で約6割（60.1%）を占めている。

平成16年度、平成17年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、16年度から18年度にかけて居住年数が1年未満の人で増加しているのに対し、1年以上10年未満の人は減少している。